

山の湖のハイキング：切込湖と刈込湖

この 2 つの神秘的な湖は、奥日光地域の中でも最も人里離れた静かな湖沼に数えられます。切込湖と刈込湖は、何百年も前に溶岩が周囲の山々から流れてくる水の出口を塞いでに形成されました。二湖は雨が少ない時以外はつながっており、また、水深は深く、最も深いところで 15 メートルにもなります。湖から流れ出ている河川はみられないため、湖水は地下の水路を通して流出していると推測されています。

伝説によると、地元の人々はかつてこの地をすみかとしていた大蛇に怯えながら暮らしていたそうです。日光の寺社の創建者である仏僧、勝道上人（735-817）は、その被害を耳にして大蛇に立ち向かい、大蛇を斬り殺してその亡骸を湖に葬りました。両湖は上人のこの勇気ある行いにちなんで名付けられました：kiri は「cut（切る）」、kari は「hunt（狩る）」、komi は「push down（押し込む/押し落とす）」という意味です。

このコースを歩く人は比較的に少ないため、トレッキングに挑むハイカーたちは、四方を鬱蒼と繁る森に囲まれた穏やかなエメラルド色の湖をひとりじめできる可能性が高いでしょう。

ハイキングコース

このハイキングコースの難度は中級程度で、起点・終点は湯元温泉と光徳温泉にあります。コースの全長は約 10km、標高差は約 300m です。ハイキングコース両端の、階段がついている勾配が急な部分が最大の難所です。所要時間は平均で 3 時間 30 分ですー湖は湯元から約 1 時間、光徳からは約 2 時間半の場所にあります。ほとんどのハイカーは湯元から出発し、湖に到着したら湯元に戻るか、光徳まで歩いてそこからバスで湯元に戻ります。

コースの見どころ

二湖を含むこのコースは、三岳（1,945m）の周りをぐるりとまわるルートをとります。山林は原生林で、スギの仲間である常緑樹のアスナロをはじめ、多様な樹木がみられます。ハイキングコースの道には、表土が浅いために水平に伸びることを余儀なくされた木の根がたくさん張っています。コースの大部分は山の西側と北側を通っているため、日陰になっています。そのため、岩や木々、そしてトレイル自体に多種の苔が生えており、それらがこの太古の森の神秘的な雰囲気を高めています。道中とこころどころで、コース沿いの火山岩の隙間や洞窟から吹いてくるひんやりとした空気を感じられますー一種の天然のエアコンです。コースの湖より光徳側では途中、道中数少ない開けたエリアのひとつである涸沼を通ります。涸沼は「乾いた沼 dry swamp」という意味ですが、現在ではむしろ乾いた平原に見えます。ここは、初夏には高山植物が花を咲かせ、秋には色鮮やかな紅葉が見られる人気の休憩スポットとなっています。

コースのアドバイス

- 朝早くに出発するのが大事です。ハイキングコースの起点（終点）から出るバスの本数は限られているため、終点にたどり着くのが遅くなると立往生してしまう可能性があります。
- 奥日光の山の天気は急に変わることがあります。適切な衣類を着用し、ハイキングに適した靴を履いて、こまめに水分補給をしてください。
- ハイキングコース沿いの数箇所に休憩できるベンチが設置されています。
- 指定のコースから外れないでください。
- 写真は好きなだけお撮りください：でも、残して帰るのは足跡だけにしましょう。